

太鼓や尺八、民謡が会場に

3月13日、第18回清志会民謡発表会が安平公民館で開催され、地域の方などが太鼓や尺八、民謡を聴きながら楽しいひとときを過ごしました。

民謡の全国大会出場者や同好会の方が自慢ののどを披露。小学生の少年少女民謡クラブの元気な歌声に会場から多くの拍手が送られました。



日米文化の違いを体感

3月18日、早来公民館で国際理解講座の講演会が開催されました。講師は苫小牧駒澤大学准教授のロバート・カール・オルソン先生。2年間の滞在予定が18年にもなり家族もできたとのことでした。

来日した当時は、ロバートさんは日米の文化の違いに驚きの日々でした。建物の中では靴を脱ぐと教えられ、デパートで裸足になって歩いたことなど、多くのエピソードを語り会場から大爆笑。授業で英語を教え、町のイベントに参加したり、町民との交流を深めるなど懐かしい思い出を語っていました。



新入学児童にプレゼント

安平町誘致企業会は、地域発展や地域振興に対する会の取り組みの一つとして合併後、町内5つの小学校に入学する子どもたちに記念品を贈ってきました。「今年も新しく入学する児童にプレゼントしてください」と、3月24日に代表の大場正志会長が教育委員会を訪れ、教育長に記念品を渡しました。

記念品は各学校を通して4月7日の入学式の日には新1年生全員に手渡されることになっています。



活力ある経営術を研修

3月25日、早来町民センターで安平町誘致企業会主催の経済セミナーが開催され、町内の企業や事業所の経営者などが受講しました。

研修会では、『まち元気づけプロジェクト』のプロジェクトマネージャー境毅氏が講演。時代に勝つビジネスは「情報を発信し、ネットワークを築くことなどの能力が必要」と強調。また、道の産業立地課の職員が融資制度の概要についての説明などが行われ、セミナー終了後に地元食材を使った料理で懇親会が行われました。さまざまな業種の参加者が名刺交換をしたり、経済情勢などを語っていました。



三國シェフも観戦

3月26日から28日まで「ABIRA ミクニカップキッズアイスホockey大会」がせいこドームで開催され、町内外から12チームが参加しました。この大会は小学生3年生以下の児童が出場し、今年で4回目となります。世界のシェフと呼ばれる三國清氏も来町し、元気にパックを追うプレーを観戦しました。前年度優勝の安平ギャロップは惜しくも予選で敗退しました。

選手たちは、最終日に三國シェフのレシピによるカレーライスをみんなで食べました。



観戦する三國シェフ(円内右から2人目)と試合風景